

最も短い詩としての俳句の性格（II）

山口 青邨

俳諧や連歌はどこまでも俳諧や連歌であり、俳句は俳句である、俳諧の興隆を唱へるのはかまはないが、それは俳句とは別の問題で、もし俳句に問題があるならば俳句に就て研究すべきである。

私は俳句は五七五調、十七字詩として立派に生存出来ることを疑はない。

かつてフランスに日本の俳句をもつて行つた人がある。クーシエといふ人である。それ以来フランスにはハイガイといふ詩の一派が興つた。クーシエとかヴォカンスとか、モンブランとかいふ人達の仕事であつた。

山口青邨著『俳句入門』より抜粋